

2015度第4回目のセミナーを下記の通り開催致します

《日 時》2016年1月16日(土) 13:00～15:00

《場 所》財団法人俱進会事務所(當団地下鉄丸の内線・四谷三丁目駅より徒歩3分)

新宿区左門町9番地 玉盛ビル302号

☎03-3341-4190

### 《題 目》「反知性主義と日本の教養」

《発題者》森 本 あんり 氏(国際基督教大学 学務副学長)

【講師略歴】: 1979年国際基督教大学卒、東京神学大学大学院を経てプリンストン神学大学院を修了(Ph.D.)。

1991年国際基督教大学牧師、1997年同大学人文科学科准教授、

2001年教授(哲学・宗教学デパートメント)、2012年より学務副学長、現在に至る。

2002年にプリンストン神学大学院で、2010年にバークレー連合神学大学院で、それぞれ客員教授として授業を担当。

【著書】:『反知性主義』(新潮社)、『アメリカ的理念の身体』(創文社)、『アメリカ・キリスト教史』(新教出版社)、

『アジア神学講義』(創文社)、『ジョナサン・エドワーズ研究』(創文社)、

Jonathan Edwards and the Catholic Vision of Salvation (Penn State University Press)、等。

【共編著】:『人間に固有なものとは何か』(創文社)、After Jonathan Edwards (Oxford University Press)、

Building New Pathways to Peace (University of Washington Press)、等。

《概要》「反知性主義とは何か。そのアメリカ的な由来を尋ね、現代日本への問い合わせを探る。反知性主義は、単なる知性への反撥ではなく、既存の知性への反撥であり、その限り反権威主義であり、新たな知への促しである。反知性主義が前提する知性とは何か。それは、日本の知的伝統の形成や大学における教養教育にはどのような役割を果たすか。」

## 「反知性主義と日本の教養」

俱進会セミナー 1/16/2016 森本あんり（国際基督教大学）

### 1. 「反知性主義」の系譜

- ・ピューリタン社会の極端な知性主義
- ・牧師養成を目的としたハーバード大学の設立
- ・リバパイアリズムと巡回説教師の出現
- ・「学者」「パリサイ人」ではなく「幼子」に



### 2. 「ハーバード主義」(Harvardism)

- ・ビリー・サンデー（大リーグ野球選手から大衆伝道者へ）

そうさ、あなたは5ドルもする百科事典で、おれは2セントのタブロイド紙だ。お高くとまつた連中は、そういうのが好みかもしれない。だが、ハーバード主義・イエール主義・プリンストン主義(Harvardism, Yalism, Princetonism)にはもううんざりだ。おれは神学も生物学も知らないし、学問なんか何も知らない。だがな、大衆は誰も百科事典なんか買わない。タブロイド紙を喜んで買うんだよ。おれがその大衆だ。

——映画「エルマー・ガントリー」(1960) より

- ・つまり、「ハーバード大学」ではなく、「ハーバード主義」に反対  
知性の越権行為、知性と権力の結託、世代間格差固定化への反対（ビケティ問題）

- ・単なる「知性への反撥」ではなく、「既存の」知性への反撥
- ・旧い知の体制に挑戦し、新たな知の誕生を促す「反権威主義」
- ・「ポピュリズム」が基盤、峠を越えると急激に落ちてゆく
- ・キリスト教「リバパイアリズム」と同じく、社会の変革と再創造



### 3. アメリカの反知性主義の駆動力 = 「平等」理念

- ・「独立宣言」の論理でもある
- ・奴隸制や黒人差別への反対、女性の権利や同性愛者の権利へ
- ・親の七光りでなく、誰もが公平に、自助努力でのし上がる（例：共和党トランプ候補）  
ゼロからの出発、だからいつも「アメリカン・ドリーム」になる

### 4. では「知性」(intellect) とは何か

- 〔 人工知能 (Artificial Intelligence = AI) チェスや将棋、自動運転、東大入試合格  
反知性主義 (Anti-Intellectualism = AI?) 〕

インテリジェントな動物や機械（知能）vs. インテレクチュアルな人間（知性）  
つまり、単なる認識力や分析力ではなく、再帰的な知、自己へのふりかえりの能力

## 5. 日本の伝統における「教養」の位置づけ

- ・南原繁「専門知による知の分断への反省から、一般教育と新制教養学部へ」（1945年）
- ・日本の大学院教育の内部崩壊
- ・『きけ わだつみのこえ』から（文藝春秋『2016年の論点100』を参照）  
「お母さん、お気持ちはようくわかります。しかし時代とわれわれの教養が、  
御言葉に沿うのを許さないので。どうぞ先立つ不孝は御ゆるしください。」  
——東北大の法科に在籍していた20歳の学生

## 6. 人格の基底にある倫理性

### 「リベラルアーツ」（教養教育）

- ・「文系」ではない
- ・「自分の行動を倫理的に判断する力」
- ・「歴史の転轍手」  
(大塚久雄)

*"% saying two- and four-year colleges should place MORE emphasis on helping students develop these skills, qualities, capabilities, knowledge"*



AAC&U Key Findings: Employer's Views on College Learning (2009)

## 7. 「教養」とは何か

ひとが手に入れる知識の何かではなく、その知識を手に入れたひとの人格が変貌すること

自己の存在を揺さぶる実存の問いに直面することで辛くも得られるもの  
世界に自己を倫理的に定位し、決断に際して考慮すべき選択肢を見据え  
それがもたらす帰結の広がりを推し量り、自分の言葉や行為に責任をもつ

### 「自己へのふりかえり」の能力を身につけた知性

結局人間の知の要請は、古代以来そんなに変わっていない



- ・「わたしは、あなたの指のわざなる天を見。  
あなたが設けられた月と星とを見て思います。  
人は何者なので、これをみ心にとめられるのですか。」  
(旧約聖書「詩編」8:3-4)
- ・「汝自身を知れ」(γνῶθι σεαυτόν) = "memento mori"

# 大学教育と反知性主義



森本あんり

近畿大学教育学部准教授

「反知性主義」という言葉が日本でもよく使われるようになった。その意味するところはそれそれで、最近は特に政治的な立場の異なる相手を罵る「知性的欠缺」を揶揄する時に使われるようである。わたしは、この言葉の本来的な用語法にもう少し繊細的な意味が含まれていることを語りたが（新潮選書『反知性主義』はその由来となったアメリカの著者）、反知性主義はむき出しの粗野な敵意をもつて相手に先々しく襲いかかることがある。このような反知性主義は、一方で單なるスノーピズムに堕した教養主義を或へ上からさせてその張面を剥ぎ取るが、他方ではその躍進によってもたらす知識伝播を担うようとする腰の弱わった教養主義を浮かび上がらせることがある。

反知性主義は、これら両者をぶるいにかく使われるようになつた。その意味するところはそれそれで、最近は特に政治的

立場の異なる相手を罵る「知性的欠缺」を揶揄する時に使われるようである。この意味では、國者を見かけるはたらきをするのである。

日本の知識伝播にはこのような反知性主義の痕跡が見られないでの、國者を見分けすることは困難である。だが、「目先のままでいい論議を離れて歩し遠くを見るなら」、そこには別のしあだ下さいにかけられた知的的精神の気骨があつた。

でも、反知性主義はむき出しの粗野な敵意をもつて相手に先々しく襲いかかることがある。このような反知性主義は、一

方で單なるスノーピズムに堕した教養主義を或へ上からさせてその張面を剥ぎ取るが、他方ではその躍進によってもたらす知識伝播を担うようとする腰の弱わった教養主義を浮かび上がらせることがある。

反知性主義は、これら両者をぶるいにかく使われるようになつた。その意味するところはそれそれで、最近は特に政治的

立場の異なる相手を罵る「知性的欠缺」を揶揄する時に使われるようである。この意味では、國者を見分けすることは困難である。だが、「目先のままでいい論議を離れて歩し遠くを見るなら」、そこには別のしあだ下さいにかけられた知的的精神の気骨があつた。

でも、反知性主義はむき出しの粗野な敵意をもつて相手に先々しく襲いかかることがある。このような反知性主義は、一

方で單なるスノーピズムに堕した教養主義を或へ上からさせてその張面を剥ぎ取るが、他方ではその躍進によってもたらす知識伝播を担うようとする腰の弱わった教養主義を浮かび上がらせることがある。

反知性主義は、これら両者をぶるいにかく使われるようになつた。その意味するところはそれそれで、最近は特に政治的

## 文藝春秋『2016年の論点100』

学生としての生き方を求めて、せっかく苦労して飛び込んだ道」を貢い、その結果を静かに受け入れる情意を決めたのである。彼の「教養」は、学問の志を曲げてまで自分一人の命運を画策することを諦めてしまい、というところにあらわれている。自分が生き残ることだけを目指すに学問上の傾向をすること、彼の矜持が詐さなかつたのである。自分の活潑や洒脱にみずから生存をかけ、自分の概念や思想を言い譯せずに真くといふとは、「教養」の深みに含まれる大切な要素の一端ではないだろうか。そこには、主義主張の深いを組んで奉承されるべき人格のインテグリティがある。

戦後日本の大学制度は、専門知識から分断され、国家政策に従事してしまつたこと、新しく導入された総合知としての「教養」は、学生の倫理的判断能力には何の関連もないといつていいのである。だが、次も大學はその言葉を尊崇するかに見せかけながら、「専門教育」の手前であつても、濟ませておくべきお荷物のように扱つて

いた。近年では、たまたま「教養」では古きからと「国際教養」という奇妙な合説も登場したが、「教養」という概念の本を通る定義を見出さうとする努力は払はれないままである。

先日、アメリカのトータル企業経営者た

ちが大学教育に何を求めるか、という問題の結果を見た。アメリカではアーバン教育が盛んなので、そこを教えるべき

法令遵守や企画イメージ云々といった次元の問題ではない。誰でも困難な判断をする時は「人である」、結局は各個人が切羽詰まつた最後の回間にどのようない決断をするか、という人柄の底に見る知識の何かではない。何かを知る人が、その他の人の人柄も深く影響を与えてはおかないとしないしかたを知ることである。このような知は、授業で評定の道徳的な善悪を教えるは体得される、といつものではない。それは、「理屈」による命運の運営が、必ずしも予想外である。つまり、それがもたらす結果の広がりを測る。その時のほんまの可能性と限界とを知る。変えるべきものを変え、受け入れるべきものを受け入れ、そしてその裏を見せ分ける洞察力を養う。教養とは、こうして自己へのぶりかえりの能力を身につけた知性のことである。

ここで母の眞吾類似を断つのに「教養」を教えることは困難である。だが、「目先のままでいい論議を離れて歩し遠くを見るなら」、そこには別のしあだ下さいにかけられた知的的精神の気骨があつた。その後洋服家は、この学術が社会主義に對する嫌感である。しかし時代とわれわれの教養が、御言葉を許さないのです。どうぞ先立つ不孝は宥めるとして下さい」（翁文庫新版、一九九九年、一八六頁）。東京

大島は、彼の教養が間違っていたとは思わない。問題は、その行く先が社会主義や自由主義ではなく段階に向かつていた、ということではない。彼は、「文科系卒業の後止や転職」という問題では、誰も自由主義にも与せず、まっすぐに九段へ向いてしていることを評す。そのような「教養」を学んだ人の「責任は重い」と書いている（日高六郎「私の平和論」、岩波新書、一九九五年、六三頁）。

わたしは、彼の教養が間違っていたとは思わない。問題は、その行く先が社会主義や自由主義ではなく段階に向かつていた、ということではない。彼は、「文科系卒業の後止や転職」という問題では、誰も自由主義にも与せず、まっすぐに九段へ向いてしていることを評す。そのような「教養」を学んだ人の「責任は重い」と書いている（日高六郎「私の平和論」、岩波新書、一九九五年、六三頁）。

わたしは、彼の教養が間違っていたとは思わない。問題は、その行く先が社会主義や自由主義ではなく段階に向かつていた、ということではない。彼は、「文科系卒業の後止や転職」という問題では、誰も自由主義にも与せず、まっすぐに九段へ向いてしていることを評す。そのような「教養」を学んだ人の「責任は重い」と書いている（日高六郎「私の平和論」、岩波新書、一九九五年、六三頁）。